

京都ならではの STEAM 教育充実に向けた調査研究検討会議について

1 趣旨

明治維新による急激な人口減少で、都市存亡の危機に直面した京都の先人たちは、「まちづくりは人づくりから」と、「竈金(かまどきん)」と呼ばれる私財を出し合い、1869年(明治2年)に、日本初となる学区制小学校(番組小学校)を創設しました。この創設の原動力となった町衆の伝統と進取の気性、自治の精神は、京都の「ひらかれたまち柄」として脈々と継承され、「市民ぐるみ・地域ぐるみで一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都市教育の発展の基盤となっています。

番組小学校創設から100年経過した1969年(昭和44年)、人類が初めて月面に着陸し、科学の新たな歴史が幕を開ける中、「京都に名実ともに日本一の科学館を建設したい」という市民の願いと各界の皆様方の多大な御尽力により、『『科学者精神』を体得した将来の市民の育成』を設立目的とした「京都市青少年科学センター」が開館いたしました。以来、約55年にわたり、京都の大学や企業、博物館等関係機関、市民の皆様を支えられ、科学への興味や探究心を触発し、「科学する心」を育む拠点としての役割を果たしてきました。

一方、グローバル化の進展や AI(人工知能)技術の普及、自然災害など、時代の変化が複雑化・加速化の一途を辿る中、子どもたちをはじめとした一人ひとりが、時勢に翻弄されることなく、自然や歴史、文化に触れながら豊かで鋭敏な感性を育み、個性に応じて様々な事物を探究し続け、Well-being な人生の創造につながるような、夢中と感動に溢れた学びの場が求められています。

以上を鑑み、京都の「ひらかれたまち柄」の強みが最大限に生かされ、実社会での問題発見、その解決手法の模索、新たな価値の創造を志向する「京都ならではの STEAM 教育」の充実に向け、京都市青少年科学センターが、これまでの蓄積を大切にしつつ、その拠点たるに相応しい科学館へと飛躍を遂げるべく、調査研究を進めます。その一環として、今後の科学館としての「使命」や「あるべき姿」、「果たすべき機能」、「機能を実現するために必要な環境」等について、多角的な視点から議論を深めていただくため、検討会議を開催します。

2 今後の進め方

(1) 検討会議のスケジュール

	日時	内容(予定)
第1回	2025年7月8日(火)	・ STEAM 教育の意義 ・ STEAM 教育の充実に向けた科学館への期待
第2回	2025年9月上旬頃	・ 科学館が果たすべき機能等
第3回	2025年12月上旬頃	・ 機能を実現するために必要な環境等
第4回	2026年2月下旬頃	・ 全体整理

(2) ワークショップ「まちびとよりあい～京都で STEAM～」の実施

上記(1)と同時並行して、京都ならではの STEAM 教育、その充実に向けた科学館の姿などを市民と共に考えるワークショップを3回程度開催します(参加者は公募による)。

ワークショップの内容については、検討会議にフィードバックするなど、両者を往還させながら調査研究の充実を図ります。

<ワークショップの実施予定>

	日時	内容(予定)
第1回	2025 年 8 月 24 日(日)	「京都でできる STEAM って何だろう？」 →身近な体験や事例をもとに「STEAM のタネ」を見つける。
第2回	2025 年 9 月 7 日(日)	「京都ならではの STEAM の学びは？」 →京都の地域性を活かした STEAM の学びの空間や体験などのアイデアを広げる。
第3回	2025 年 11 月 9 日(日)	「京都で STEAM を育てていく仲間集め」 →第2回の内容の実現に向けた協働の輪を広げ、参加者が「どう関われるか」を宣言する。

<イメージ>

